

## 太田川ダム湖 水質悪化深刻

森町・岡本 尚

(植物生理研究者 83歳)

昨年9月以来、台風が来るたびに太田川ダム湖に淡水赤潮が発生している。当初は湖面に濃い緑色から褐色の帯が見られたが、今年、霊是大橋の上下流では湖面全体が黒褐色に染まっている。

採水を顕微鏡で調べると視野全体に多数の鞭毛虫が泳ぎ回っている。中

には魚毒を生産するポロニウムではないかと疑われる種類も観察された。

これらのプランクトン密度は昨年の10倍に増大している。

土砂の流入と停滞もひどく、透明度は再々50センチを切り、放水口からは米のとぎ汁のような水が放流され、太田川本流の白濁は時に下流の袋井地区に及んだ(住民の証言)。

県当局はダムができる

前、住民の懸念に対してこういう事態は起こらないと断言していた。遠州

水道の給水能力は十分で、その3%程度の太田川からの給水は全く必要ない。ダムの貯水はやめ、本来の目的であった防災ダムに戻せば洪水調節容量は600万立方メートルから1080万立方メートルに増える。空にしておけばM9の地震がきてもダム災害は未然に防止できる。